成長ホルモンに関して

子供時代に、この成長ホルモンが十分に出なくなって、背の伸びが悪くなり、低身長状態になる病気が「成長ホルモン分泌不全性低身長症」です。この病気と診断されたら、成長ホルモンを健康保険で投与することができます。

点滴でアルギニンを投与すると、下垂体から成長ホルモンが分泌されます。「成長ホルモン分泌刺激試験」と言われ、成長ホルモン分泌不全性低身長症の診断に利用されます。アルギニンの代わりにインスリンを用いることもあります。

成長ホルモンが、のべつまくなしに大量に分泌される病気が巨人症です。骨端線が閉鎖した後は、顎や目の上の骨が前方に突出してくるので、末端肥大症ともいわれます。成長ホルモンを注射で投与しすぎても、この病態になることはありますが、よほど大量に投与しないとなりません。

「よく伸びる2年」など、自己の成長ホルモンがたくさん出ている時に、成長ホルモンを投与しても、背の伸びはあまり変わりません。しかし、「止まりゆく3年」の後半など、自己成長ホルモンの分泌が減ってきたころに、成長ホルモンを投与すると背の伸び率が改善します。

成長ホルモンが減っている40歳以上の大人に投与すると、体力回復、疲労回復、意欲向上、ポジティブな気分、肌のハリの回復、内臓脂肪の減少などの効果が見られますので、アンチエイジング効果として利用されています。